様式第１号

令和４年６月　８　日

真庭市議会
議長　小　田　康　文　殿

真庭市議会
受
'22.6.-8
付
7

真庭市議会議員　　吉　原　啓　介　印

調査研究、~~研修会、要請・陳情活~~動届

政務活動費を使用して、下記のとおり研究、調査等を行いますので届けます。

記

1　区　　分　　調査研究　　研修会　　要請・陳情活動

2　訪　問　先　　農林水産省

3　内　　容　　農林水産省の若手有志職員によるオープンラボ「日本産長粒種米プロジェクト」の活動にかかるヒアリング

4　行　　程　　別紙のとおり

5　事務局から訪問先への依頼　　必要　・　不要

（注）複数の議員で実施する場合、代表者の届けでよいが、参加議員名簿を添付すること。

参加議員名簿

調査研究日	相手先	参加議員氏名
令和4年6月15日	農林水産省 経営局 就農・女性課	吉原啓介
令和4年6月16日	農林水産省 経営局 就農・女性課	福島一則

行程表（吉原）

令和4年6月13日	移動日	21:03	美作落合駅	JR
		21:33	津山駅	
		22:30	津山駅	夜行高速バス
令和4年6月14日		6:55	バスタ新宿	
	打ち合わせ〔渋谷〕 （JR駅での特産品販売イベント）	13:30 15:30	（一社）MIKATAプロフェッショナルズ	
令和4年6月15日	調査研究〔霞が関〕 （農林水産省・政策Open Lab）	13:30 15:30	農林水産省 経営局 就農・女性課	
令和4年6月17日	打ち合わせ〔渋谷〕 （真庭プロモーション活動）	17:00 19:00	doing history/ HIT VISION	
令和4年6月18日	移動日	8:09	東京	JR
		11:22	岡山	
		11:56	岡山駅東口	中鉄北部バス
		13:19	米沢町十字路	
※宿泊　さいたま市浦和区北浦和5-3-3 A-812（留守宅）　080-5006-8389				

6/16は休日

行程表（福島）

令和4年6月15日	8時00分	落合インター　自車移動
	9時25分	岡山桃太郎空港
	13時30分	農林水産省経営局就農。女性課
	15時30分	
	16時00分	平沼正二郎
	16時30分	石井正弘
	17時00分	小野田紀美
		赤坂陽光ホテル　東京都港区赤坂6丁目14-12
		０３－３５８６－０４５０
令和4年6月16日	9時30分	一般社団法人日本地域開発センター
	10時30分	
	11時30分	新橋岡山、鳥取館　とっとり・おかやま新橋館
	13時30分	
	14時20分	羽田空港
		岡山空港　自車移動、帰宅

議長　副議長　局長　GL　係　回覧

報　告　書

真庭市議会 受 '22.6.22 第付号 7-1

令和4年6月22日

真庭市議会議長　小田 康文　殿

報告者　真庭市議会議員　氏名　吉原 啓介

下記のとおり政務活動費を使用して 調査研究・~~研修会・要請陳情活動~~をしましたので、その結果を報告いたします。

記

1．日時
令和4年6月15日　13時30分～15時
2．場所
農林水産省（千代田区霞が関1-2-1 中央合同庁舎第1号館）2階会議室
3．出席者
相手方担当者：農林水産省 伊藤氏、三浦氏、田中氏
当方出席者：市議会議員　福島、吉原　真庭市職員　落合振興局 中島参事
4．用件
農林水産省の若手有志職員によるオープンラボ
「日本産長粒種米プロジェクト」の活動にかかるヒアリング
5．概要
(1) ヒアリングを行うこととした背景・経緯
農林水産省では、省内の若手有志により新たな農林水産政策を企画立案・実行を支援するための「政策 Open Lab」があり、この仕組みに基づき結成された「日本産長粒種米プロジェクト」チームにて、インドやパキスタン等で生産・輸出されているバスマティ種を日本でも栽培可能なように改良した品種（主にプリンセスサリー）につき、その生産・販売等にかかる事業可能性の検証への取り組みを令和3年度から行っている。
日本国内の主食用米の需要量は毎年約10万トン減少しており、販売促進に向けて輸出拡大への取り組みは必須。
一方、世界の米生産の8割、貿易量の9割は長粒種であることから、海外に向けた販路拡大のためにはこれらの系統種の生産に取り組む必要がある。

当該プロジェクトの目的は、長粒種米を日本国内で生産し世界において売れる米づくりを、というものであり、令和 3 年度の具体的な取り組みとし以下のようなことを行ってきた。

・日本で栽培可能な長粒種米の実証栽培、加工実証
・インドの米卸事業者と日本企業の連携可能性検証
・海外での日本産長粒種米の販売可能性の検証

真庭市においては、農事組合法人寄江原において農業振興課のチャレンジ事業補助金制度を利用して令和 3 年度からプリンセスサリーの栽培に取り組んでおり、市内飲食事業者等への供給、PR を行っている。また、米価低迷の中、当該品種は在来の日本米より高値での取引が期待できることから令和 4 年度はさらに生産拡大を計画し、栽培ノウハウや販路開拓を通じて市内の他の米生産者とも連携した真庭の特産品化、ブランド化を模索している。

このような状況の中、生産地としての真庭、政策推進に向けてより多くの情報を求める農林水産省プロジェクトチームの間で情報・意見交換を行うことになった。

(2) 内容

【プロジェクトチーム・伊藤氏】

・昨年度からプロジェクトチームを立ち上げて、プリンセスサリーの試験生産を国内の団体に依頼し、約 1 トンの供給を受けた
・国内外（シンガポール）で、白米や加工品の試食調査を実施したが、白米に関してはおおむね好評だった一方、加工品としては長粒種の特徴的な香りや触感が活かされず反応は良くなかった。

【吉原】

・当該品種に関しては、米作りを「儲かるもの」にできる品種はないかと考えて令和 2 年度から個人的に導入したものを農事組合法人に紹介し、栽培に取り組みでもらっている。
・現段階では生産量が少ないため、隣接の町でスリランカ出身の方がやっている飲食店舗や市内で地元産のスパイスやハーブを用いたカレーを提供している店舗に限定的に供給しているが、使い勝手がよく価格も手ごろなことから好評である。
・今年度は作付面積を前年の 3 倍に拡大する予定だが、それでも供給先を急拡大すると年度途中で欠品するリスクが高いため、段階的に供給先を増やしていく予定。
・栽培方法に関しては、過去 2 年間の経験から通常のジャポニカ種と大きく変わることはないと思われるが、年度による気象変化の影響もあるので引き続き観察・ノウハウの蓄積を図っていく。
・この品種は、カレー等のエスニック料理だけでなく、ピラフやパエリア、炒飯等、様々な国のいろいろな料理に使えることから、将来的に新しいマーケット開拓の可能性が期待でき、農家、農村集落の生き残り戦略につながるものと考えている。

・現在は、特定の農事組合法人でのみ、試験的に生産に取り組んでいるが、販路拡大を図るのとあわせて市内の他の生産者、団体等にもこの品種の生産取り組み参画を促し、真庭産プリンセスサリーとして特産品化・ブランド化を目指したい。

【プロジェクトチーム　伊藤氏】

・カレー用として試食等も実施していたが、炒飯等にも使えるとは思い至らなかった。

・この品種の栽培データは農研機構等から示されているものはあるがまだまだ十分ではない。地域その他の条件による適性もあると思うので、栽培技術にかかる情報提供もお願いしたい。

【吉原】

・インディカ種はジャポニカ種に比べて GI 値が低いという情報もあるようだ。データとして公表できる検査機関による検査結果が得られれば、食後血糖値の急な上昇を防ぐことのできる米としてのマーケット開拓もできる。ただ、GI 値の検査には多額の費用を要するので生産者団体が単体で実施するには躊躇する部分があり、プロジェクトチームで実施検討していただけないだろうか。

・寄江原はスマート農業の実証も行っている農事組合法人であり、ぜひいちど見に来てほしい。

【中島】

・寄江原では、種籾直播やドローンを使った不陸調査・修正等、先進的な農業技術の取り組みを行っており、世界的な農薬メーカーとも情報提供等の連携を行う予定がある。

・市としても、地域振興の観点からこういった技術や品種の普及をバックアップしていきたいと考えている。

・現在、プリンセスサリーの種籾を扱っているのは埼玉県の秩父にある生産組合一か所だけ。しかも、多少日本米が混ざっているような懸念もある。作成元の農研機構からは、研究目的という名目で一つの団体当たり 1kg までは純粋な種籾を提供してもらえるが、種籾生産用としてより多くの分量を確保するために農林水産省経由で申し込むことは可能か。

【福島】

・農事組合法人等の大きな営農組織では農地の集積、機械の大型化等、作業の省力や効率を優先とした取り組み推進が主となることに加え、岡山県は有機農業に関する基準が大変厳しいため有機栽培を標榜する生産はハードルが高い。

【プロジェクトチーム　伊藤氏】

・GI 値の検査に関しては内部で検討する。

・生産地との連携は大変重要と考えているので、ぜひいちど真庭に視察にうかがいたい。

・種籾については、農林水産省も 1kg しか分けてもらえなかった。使用許諾期間が切れている品種なので、やはりこの分量から翌年度以降の栽培用を

直採取するしかない。

・プリンセスサリーに関しては、まず国産長粒種米としての普及、生産拡大が必要なので、現段階に関していえば有機にこだわる必要もないのでは。

6．所感

【福島】

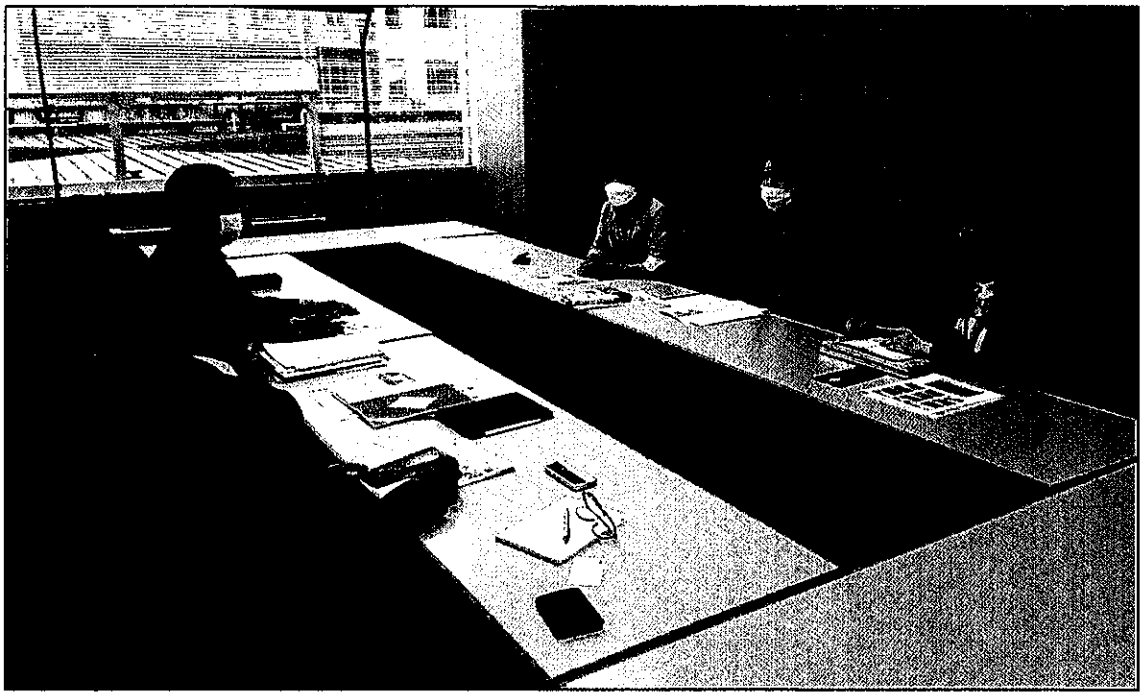
米価の長期低迷により、特に米作りを中心とした農業は継続の危機にある。市場性のある作物、品種への転換と一層の生産効率化、新たなマーケット開拓、及び大規模消費市場への供給の必要性をあらためて感じた。

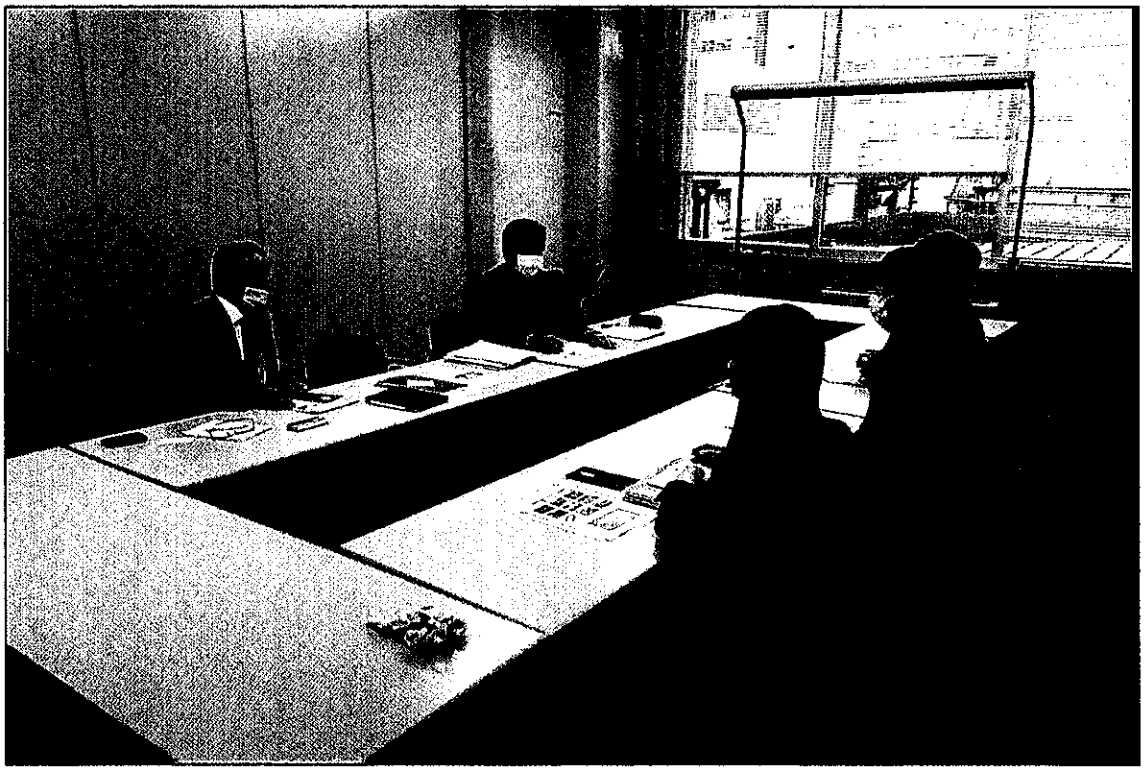
【吉原】

プリンセスサリーについては、農林水産省のプロジェクトチームでもその普及・生産と販路拡大に取り組んでいることから、農業生産活動継続・集落維持に向けた取り組み作物としての高い可能性を持ったものであることを感じた。

農業振興課、各振興局とも情報共有し、農林水産省との連携を通じて特産品化・ブランド化を図る等、農業生産活動の継続と地域の活性化に向けた提言を行っていきたい。

以　上





1．政策Open Labとは

- 「政策Ｏｐｅｎ　Ｌａｂ」とは、**農林水産省内の若手有志職員**による**新たな農林水産政策を企画立案・実行**を支援する仕組み。
- この仕組みを用いて、**旧政策統括官所属のメンバーが現在の所属部局に関わらず、プロジェクトチームを結成**し、**「日本産長粒種米プロジェクト」を実施**している。

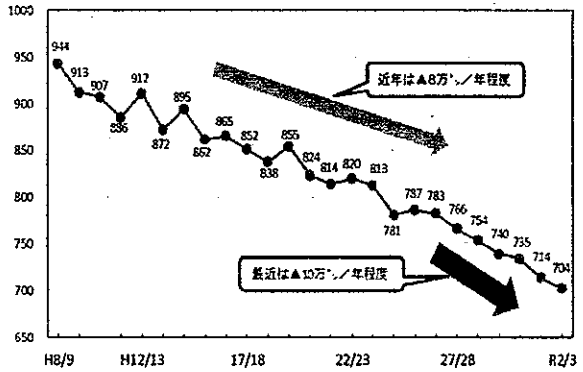
メンバー構成

本省　　9名
→現在の業務：新規就農、果樹、競馬　等
海外出向中　2名
県出向中　　1名　　計　12名

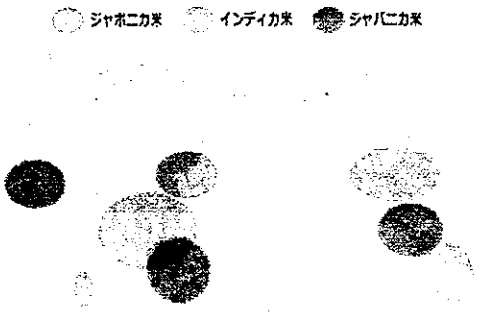
2．プロジェクトの背景

- 国内の主食用米の需要量は、毎年約10万トン減少しており、**米の輸出拡大に一層取り組む必要。**
- 一方、**世界の米生産の８割、貿易量の９割が長粒種。**世界の**米輸出額の首位はインド**であり、中でも**インドの香り高い「バスマティ米」は大人気。**
- **日本でも栽培可能なバスマティ米**として、「サリークイーン」「プリンセスサリー」が登場。

▽主食用米の需要　△約10万トン/年



▽世界の米生産



▷世界の米輸出額（2019年）

順位	国名	輸出額（億米ドル）	シェア
1	インド	71	33%
2	タイ	42	19%
3	米国	19	9%
26	日本	0.6	0.3%

▷海外市場における米の価格（2014年）

都市名	産地	銘柄	価格（円/5kg）
ロンドン	インド	バスマティ	6,960
	新潟	魚沼コシヒカリ	5,555
	秋田	あきたこまち	2,950
	アメリカ	田牧米GOLD	5,695
	イタリア	ゆめにしき	3,000
	スペイン	みのり	2,785
パリ	新潟	新潟コシヒカリ	5,535
	富山	富山コシヒカリ	5,480
	アメリカ	かがやき	2,820
	イタリア	カルナローリ	6,200
	イタリア	ゆめにしき	3,015
	スペイン	みのり	3,135
ニューヨーク	新潟	魚沼コシヒカリ	9,405
	栃木	栃木コシヒカリ	6,010
	アメリカ	錦	2,100
	アメリカ	かがやき	2,630

プロジェクト目的：長粒種米を日本国内で生産し、世界において「売れる米づくり」へ！

① 日本で栽培可能な長粒種米の実証栽培、パックご飯・米粉麺等への加工実証
② インド米卸と日本企業のアライアンスの可能性等検証
③ 海外での日本産長粒種米の販売可能性の検証

3．令和３年度のプロジェクト結果概要

（1）プロジェクトの構成

① 生産 ・・・ 金沢大地（石川県）に生産実証を依頼。**30aで約１トンを収穫**。（収量350kg/10a）

② 加工 ・・・ 上記１トンを精米、うち1/2を米粉に加工。
精米分については（株）たかの（新潟県）にてパックご飯に加工し、
米粉分についてはアジチファーム（福井県）及びむしやしない（京都府）において菓子等に加工

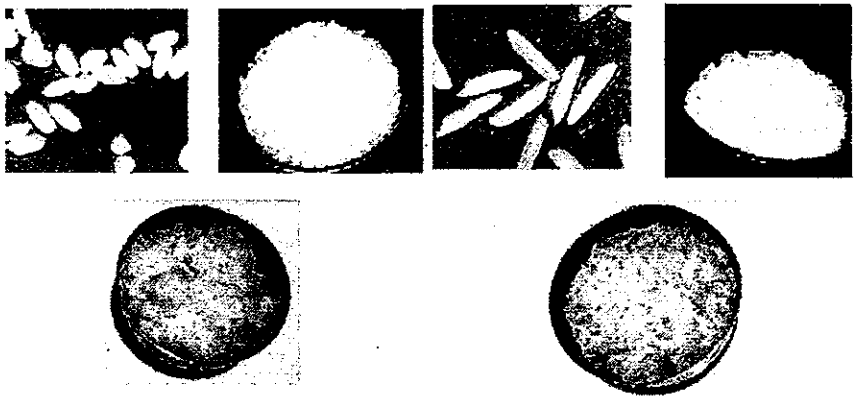
➡ 粒、加工品でそれぞれ食味調査を実施し、既に販売実績のある既存品等との比較・評価を実施

（2）結果概要

○ **プリンセスサリー（粒）**について、レストラン事業者が通常使用しているインド産バスマティ米との食味等の比較評価を実施。

- 白米の状態（調理前）では、**香りも味も、プリンセスサリーの方が良い（馴染みやすい）**という評価（香りについては、国産の炊飯前が強い）
- 一方、**調理には、インド産の方が適している**意見が大半（パラつき感）
- 現在の価格の８割程度が望ましいとのこと（海外の卸業者）

▽本プロジェクトにおいて生産したプリンセスサリー（写真左）、インド産バスマティ米（写真右）



○ この他、**プリンセスサリーを用いたパックご飯・加工品**（クッキー、せんべい等）についても比較・評価を実施。
→ 概ね、**香り**については**国産プリンセスサリーの特長が出ている**が、通常の米を使用した既存品よりも大きな優位性を感じられなかったとの意見

4．本年度のプロジェクト概要

【昨年度の評価・課題】
・米（粒）は、品質の評価は高い。コスト面をクリアしつつニーズを捉えることができれば輸出拡大等に可能性あり
・一方、プリンセスサリーの加工品については、コストに見合うのか、プリンセスサリーならでは特長がどこまで出せるのか、が課題

【目標】
・需要については、長粒種米の加工適性などを見極め、麺等への加工について、チャレンジをする
・生産については、長粒種の生産者の話を幅広く聞き、生産・加工適正・販売可能性等の知見の共有・分析を図り、長粒種の産地化への布石を打つ
・輸出を見据え、日本産のメリットが出せるブランド化を検討

【需要】
・改めて、長粒種米について**国内外の需要を調査**し、**マーケットイン型の取組**を進める
・シンガポールでの販売実証に加え、本場**インドにおける評価を目標**（インド大使館に協力を依頼）

【生産】
・プリンセスサリーに限らず、**長粒種米を生産している農業者の方から話を聞き、コスト・品質・課題等を検証**（プロジェクトについてＨＰでも公表）

【加工・販売】
・昨年度の参画企業に引き続き協力を求めるほか、新規開拓も行う